

当別町と「ドローンによる緊急医療用品搬送の実証実験」を実施

～道内初、官民共同によるドローンプロジェクト～

この度、エアロセンス株式会社（東京都文京区、代表取締役社長：佐部浩太郎、以下エアロセンス）および当別町では、経済産業省北海道経済産業局の協力のもと、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構「次世代人工知能・ロボット中核技術開発」のプロジェクトとして、小型無人航空機（以下「ドローン」）を用いた緊急医療用品搬送の実証実験を、2019年10月3日（木）当別町内において実施しましたのでご紹介します。

実証実験では、携帯電話等の上空利用に係る実用化試験局の免許を取得した、ソフトバンク株式会社の携帯電話網を利用し、ドローンからの映像及び運行制御をセルラー通信で行う目視外飛行の搬送を実現しました。官民共同によるドローンプロジェクトの実施は、道内では初めての試みとなります。

エアロセンスは空の産業革命を牽引すべく、官民共同で様々なドローンプロジェクトを展開して参ります。

目的及び背景

- 日本では現在、山間部及び離島エリアで活発にドローンが利用されようとしており、全国に先駆けて人口減少・少子高齢化が進む北海道においても、新たな物流手段としてドローンに対する期待が年々高まりつつあります。
- 本プロジェクトは、北海道内におけるドローン利活用に向けた活動を促進することを目的に、「当別町における大規模災害時の対応強化」をテーマに、ドローンによる緊急医療用品搬送の実証実験を実施したものです。

実証実験の概要と様子

日 時：2019年10月3日（木）10：00～11：30
実施主体：エアロセンス、当別町
協 力：北海道医療大学、株式会社セコマ、ソフトバンク株式会社
実施場所：北海道医療大学～当別川河川敷（往復距離 約20km）
機体情報：エアロセンス製「AS-MC03-T(BOX)」(右写真)

〈使用したドローン機体・緊急医療品〉



実施内容

- 大規模災害時、避難場所までの道路が寸断された事態を想定し、緊急医療用品（提供：北海道医療大学）と軽食（提供：株式会社セコマ）の合計1kg程度を積載したドローンを北海道医療大学から避難場所（当別川河川敷）へ向け発進
- 避難場所（当別川河川敷）に到着後、避難住民は緊急医療用品・軽食を積み下ろすと共に、避難場所の現在情報を入力したスマートフォンを積載し、北海道医療大学へ向けて再飛行
- 北海道医療大学にドローンが到着後、避難場所から搬送されてきたスマートフォンに入力されている情報を基に、当別町長が災害時対応を指示

※裏面に実証当日の写真を掲載しております。

〈チューニング状況〉



〈北海道医療大学出発〉



〈緊急医療用品搬送〉



〈避難場所着陸時〉



〈スマートフォン積載〉



〈到着・災害状況確認〉



※上記掲載以外にも、当日の実証実験の様子を記した「写真・動画データ」をご用意しております。

写真・動画データの提供を希望される場合は、資料末尾に記載の「お問い合わせ先」へご連絡をお願い致します。

実施主体の概要

エアロセンス株式会社 (<https://www.aerosense.co.jp/>)

エアロセンスは、ソニーと ZMP の合併会社として、2015 年 8 月に設立されました。エアロセンスは、ソニーのカメラ・センシング・通信ネットワーク・ロボット分野における技術と、ZMP の自動運転・ロボット技術・産業分野へのビジネス経験を活かし、自律型無人航空機 (UAV) とクラウドサービスを組み合わせた産業用ソリューションの提供を通じて、より効率的な測量、点検、管理、物流等を実現し、環境にやさしく安心して暮らせる社会の構築に貢献していきます。

当別町 (<http://www.town.tobetsu.hokkaido.jp>)

当別町では「ドローンを活用した地域振興」に着目し、平成 29 年に商工課内にドローン係を新設。町内には北海道ドローン協会「当別練習場」を有し、道内におけるドローンオペレータの育成を推進しているほか、ドローンを活用した安心・安全なまちづくりや産業振興等の活動を推進しています。

【お問い合わせ先】

エアロセンス株式会社

〒112-0002 東京都文京区小石川五丁目 41 番 10 号

TEL: 03-3868-2551、Email: contactus@aerosense.co.jp

経済産業省北海道経済産業局 地域経済部

製造・情報産業課 担当：鈴木田、丸山

電話：011-709-2311(内線 2565)、FAX：011-707-5324

E-mail：hokkaido-seizojoho@meti.go.jp